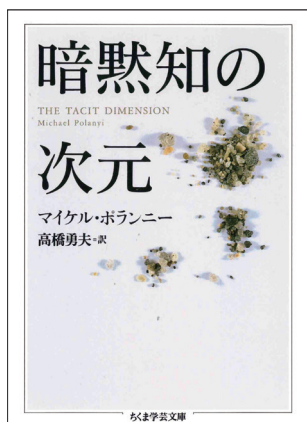


■若手に読んでもらいたい本

平坂雅男のおすすめ
高分子学会 事務局長

分野：哲学
書籍名：暗黙知の次元
著者名：マイケル・ポランニー
(高橋勇夫 訳)
出版社：筑摩書房 (ちくま学芸文庫)
出版年：2003年
価格：900円 (税別)

経営学では「暗黙知」という言葉がよく使われているが、ここでは、経営学の用語とは異なるマイケル・ポランニーが提唱した「暗黙知」を紹介したい。本書は、難解な科学哲学書ではあるが、研究者にとって「閃き」を考える参考書となる。

筆者は、ブタペスト大学で医学を学び、第一次世界大戦後にカイザー・ウィルヘルム協会繊維化学研究所で化学反応機構や反応速度論などの研究に従事した。1933年に国家社会主義ドイツ労働者党が政権を握り、ユダヤ人家庭に生まれたこともあり、英国に亡命した。その後、研究の主題は化学から社会科学に移っていった。

本書は、「暗黙知」、「創発」、「探究者たちの社会」の3章で構成されている。暗黙知は、言葉に置き換えられない知であり、内在化によって包括=理解を成し遂げることである。簡単に言えば、創造的活動に作用する本質的な知と考えられ、暗黙知により、科学的発見に潜むインプリケーションを

感知することができる。そして、暗黙知の形成プロセスが創発である。最終章では、暗黙知と創発の概念をまとめ、さらに、科学者の探求とその創造の独自性について述べている。

科学者にとっての発見は、自然発生的なものでなく、また、科学的原理による解釈のみならず暗黙知が作用している。そして、科学者は、さまざまな経験によって潜在的な可能性を秘めた暗黙知を形成し、利用していることを知ってほしい。



■私の役に立った本

長谷川靖哉のおすすめ
北海道大学大学院工学研究院 教授

分野：ビジネス
書籍名：イシューからはじめよ 知的生産のシンプルな本質
著者名：安宅和人
出版社：英治出版
出版年：2010年
価格：1,800円 (税別)

化学の研究は楽しい。私は自分の考えを分子に託し、その分子が世界を驚かせることを夢見て研究を続けている。これまでさまざまな分子を合成し、喜びや苦勞、そして感動を体験してきた。その研究に関して、私に新しい方向を教えてくれた本が『イシューからはじめよ』である。ここでは、この本との出会いと私の研究方向の転換について紹介したい。

私は読書が好きで、一週間に1~2冊の本を読む(年間約50冊)。数年前にこの本をビジネス書棚で見つけた。この本のキャッチフレーズ「人生は何かを成し遂げるためにはあまりにも短い」として「根性に逃げない」という言葉が強烈で、一気にその本を読み切った。イシューとは、「二つ以上の集団の間で決着のついていない問題」かつ「根本にかかわる、もしくは白黒がはっきりしていない問題」と定義されている。つまり、「自分のおかれた局面でこの問題に答えを出す重要性の高さ」を重視する

点が必要であり、本書では効果的なイシューを見つけるプロセスについて解説されている。ビジネス書であるがとても読みやすく、現在でも何度も読み返している。

本書がきっかけとなり、私は錯体光化学の分野から少しずつ高分子の世界「錯体ポリマー (Coordination Polymer)」へ研究を展開してきた。この研究方向の転換は、錯体が抱える本質的な問題を「イシュー」と認識し、その問題が高分子構造で克服できると感じたためである。この研究方向の転換とともに、従来の発想では予想できなかった新しい現象や機能を見つけることができた。この『イシューからはじめよ』は、私が高分子の世界へ展開するために背中を押してくれた一冊と思っている。

